

輸出事業計画 ※申請者名：

全国農業協同組合連合会山形県本部、品目：もも、ぶどう、りんご、かき

1. 輸出における現状と課題

(1) 現状

近年、日本の農産物は高品質・安全・安心であること、見た目の良さや美味しさ等から世界的に評価が高まっている。中華圏では旧暦のお盆にあたる「中秋節」での秋の需要をはじめ、日本の果物の本来の良さは他の国々のものと比べても高い評価となっており、富裕層を中心とした安定的な人気で確実な支持を受けている。

また、中華圏以外（北米）の輸出条件に産地側がどれくらい対応出来るかどうかの課題があるものの、新規輸出においても2～3年の継続的な輸出版売で固定客獲得や知名度の向上がみられるようになる場合は多く、販路拡大の可能性は高まると考える。

昨今「日本由来」の中国産・韓国産シャインマスカットなど、日本産に対抗する外国産果物も流通し始めており、これらに対応するためには「ジャパンプランド」として海外での日本産果実の露出度向上を図り、品質面、安全面の外国産との違いや、日本産の魅力を訴求するための積極的な事業展開が必要である。

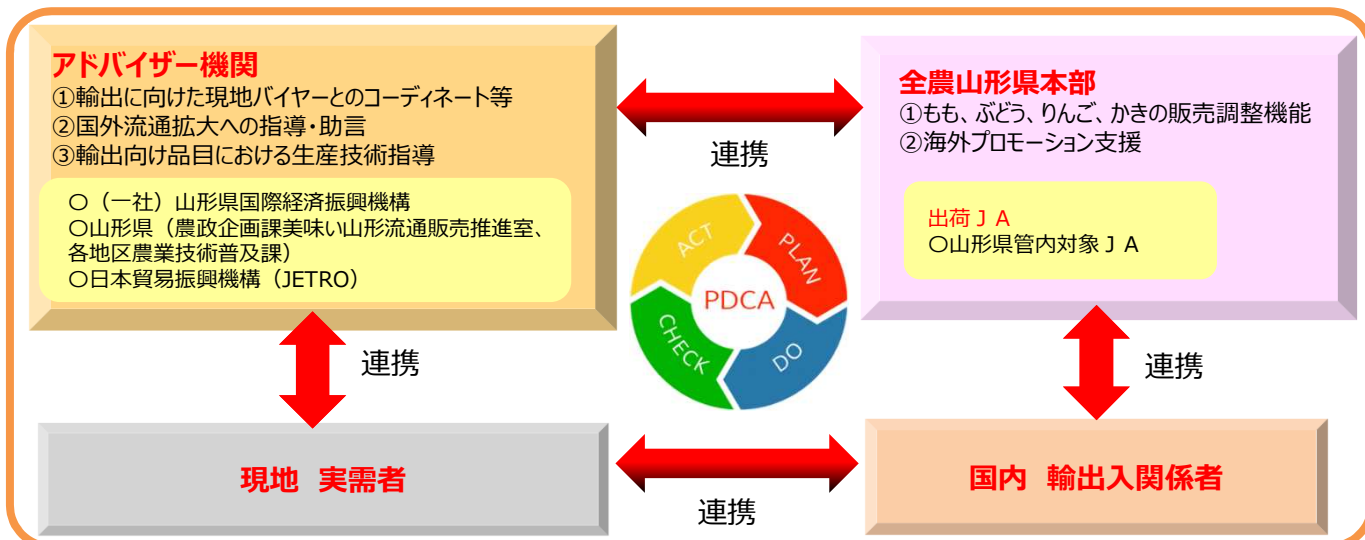
(2) 課題

- ・生産者・産地 J A の輸出事業に向けた農産物出荷への理解醸成
- ・気象災害等による品質や収量の不安定さ、長期輸送、販売に対応した品質保持の工夫と強化
- ・販路開拓、販売促進

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・検疫に係るエアー処理などの作業や梱包方法などの指導、輸出向けに使用できる農薬などの周知、県などの関係機関と連携した情報提供および研修会への参加を促し、輸出向けの出荷に対応出来る人材の育成の確保に努める。
- ・多目的防災網や防霜ファンの導入の推進、出荷時における選果段階での品質チェック、鮮度保持資材の装着による品質保持の徹底。気密性発砲スチロールを活用した輸送衝撃への対応。
- ・日本貿易振興機構（JETRO）ならびにGFPが開催する商談会やセミナーを活用した販路開拓。
- ・販促活動や動画などのコンテンツを利用したプロモーション活動の実施。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現 状	目標年			現 状	目標年			現 状	目標年
		(令和2年度)	(令和8年度)			(令和2年度)	(令和8年度)			(令和2年度)	(令和8年度)
輸出額(千円)	もも	15,100	30,000	ぶどう	りんご	13,100	30,000	かき		905	1,800
輸出量(t)		19.00	37.50			35.00	80.00			2.99	6.00
輸出先国		香港、台湾、シンガポール				香港、台湾、シンガポール				香港、台湾、シンガポール	